講　演　概　要

■講　　演（１）

講演タイトル：『技術は人間を救えるか？マレーシアパームオイル産業と自然環境の共存を考える』

講　　師：白井　義人氏（国立大学法人九州工業大学名誉教授，農学博士 ）

講演概要

我々人類は、将来に渡って持続可能な資源とエネルギーの獲得を考える必要がある。100 年前と比較して現在の平均寿命や生活レベルの高さを考えた時、その大きな貢献の多くは石油、石炭、天然ガス等、化石資源の利用により、それ以前の人類と我々とでは、比較にならない利便性と安全性が担保された社会をつくることができたと思う。しかし、その一方、化石資源は、まず、今のままでは 100 年ももたないのでは？と大変心配になるし、炭酸ガスが必然的に排出され、地球温暖化を促進するため、天災の頻発が憂えられる。持続可能で、さらに、これまで得られた優れた技術を十分に改良し、将来的にも安全で健康で、愉快な社会が続くことを真に願う。今回は、(私自身そう信じる)持続可能な農工産業であるパームオイル産業を題材にして、自然に存在する資源であるバイオマスを賢く利用することにより、持続可能で、経済の活性化にもつながり、世界の中で未だ貧しい人たちが豊かになれる方向性を示し、「金持ち喧嘩せず」と言われるように、争いや諍いがない社会になる方向性を考えたいと思う。

■講　　演（２）

講演タイトル：『鹿児島の地質学的成り立ち』

講　　師 ：北村　有迅 氏（鹿児島大学理工学域理学系/助教，博士（理学））

講演概要

日本列島は複数のプレートが接する境界部に位置しており地殻活動が極めて活発であるため，社会基盤インフラを構築する上で，地質学的な地域性を理解することが重要である。地質学では，野外調査および物質科学的なアプローチを用いて地域に分布する岩石の種類や物理化学的性質を明らかにして，地域から得られる天然資源の探索，構造物の基礎を支える地盤の物性の理解，地震や火山等の地質災害の予測や対策などに関する知の集積を行っている。鹿児島県には，付加体，火山，鉱物資源，化石など幅広い地質学的要素が存在し，日本列島が置かれている沈み込み帯の縮図となっている。